

令和4年度

東京都写真美術館作品資料収蔵委員会

作品資料評価部会

令和4年11月1日(火)

東京都写真美術館 4階会議室

午後4時00分開会

大森文化施設担当課長：本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから、令和4年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会作品資料評価部会を開催させていただきます。

私は、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当課長の大森と申します。司会進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

作品資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会のほうは、東京都写真美術館の収蔵品として作品がふさわしいか否かを付議する会となっております。今回の評価部会のほうは、東京都写真美術館の収蔵品としての価格を、個別の委員の方々に御評価いただくという位置づけとなっております。

本日、こちらの評価部会の前に収集部会を開催させていただきます。今回の部会でお諮りする案件につきましては収蔵するのが適当であるという御意見をいただいておりますので、御報告させていただきます。

本日の評価部会では、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適切な価格評価をよろしくお願いいたします。

それでは、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。私のほうから向かって左の席から順に御紹介させていただきます。

荒木委員でございます。

飯田委員でございます。

高橋委員でございます。

松永委員でございます。

松本委員でございます。

南委員でございます。

矢野委員でございます。

なお、石田委員は、本日御欠席と御連絡いただいております。

続きまして、事務局職員を御紹介させていただきます。

写真美術館副館長の林でございます。

写真美術館事業企画課長の關次でございます。

よろしくお願いいたします。

次にお手元の資料の御確認をお願いしたいと思います。

まず会議次第がございます。続きまして、資料1「委員名簿」、資料2「東京都写真美術館作品資料収蔵委員会設置要綱」がございます。

続きまして、評価の関係資料として、「令和4年度収蔵作品資料別収集予定点数一覧表」が表についてホチキス留めのつづりがありまして、その下に「令和4年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会購入作品」の「東京都購入案件」個表、「東京都写真美術館購入案件」個表、「寄贈案件」個表と、3つの厚めのホチキス留めのつづりがございます。

そのほか、評価書として東京都購入案件のもの、東京都写真美術館購入案件のもの、寄贈案件のもの、3種類ございます。もし過不足がありましたら、議事の途中でも事務局職員にお申しつけください。

なお、お手元の資料ですけれども、現時点で未公開の情報がございますので、会議終了後に回収させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、議事に入る前に当部会の公開について確認させていただきます。本日の議事は評価対象資料の価格評価に関するものですので、「東京都写真美術館作品資料収蔵委員会設置要綱」第10に基づきまして、会議を非公開といたします。

なお、当部会の議事録につきましては、作品資料の収集決定後に、委員の皆様のご個別の価格評価を除きまして公開を予定しております。公開に当たって支障のある内容がないか、事前に委員の皆様にご確認させていただきたいというふうに考えております。また、委員の皆様のお名前と現職名は、東京都のホームページで公開させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に入りたいと思います。

写真美術館の關次より、本日皆様に御評価いただく資料の説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

關次事業企画課長：よろしくお願いいたします。

先ほどの収蔵部会で御評価いただきました作品に引き続きまして、価格の評価について委員の皆様によりよくお諮りしたいと思います。よろしくお願いいたします。

今回、収蔵点数、寄贈点数が、こちらの一覧にございますとおり、まず都費で購入する作品につきましては16作家の60点、そして写真美術館の自主財源で購入する作品につきましては5作家の38点です。

3つ目の厚いつづりになりますが、今回収蔵委員会に付議する寄贈作品、こちら全てで41作家の315点ございます。詳細については後ほど御説明させていただきます。

まず国内作品ですが、今井祝雄さん、これは来年度映像展で公表する、風景をテーマにした映像展で紹介する作品の3作品。

国内作品2枚目、4ページ目の音納捨三さんのフォトグラムの作品ですが、こちらは1点。

Satoko Sai+Tomoko Kuraharaのお2人のユニットでございます。この「インナー・ランドスケープス、トーキョー」4作品。

多和田有希さん、今年の新進作家展に出品中の作家の作品2点目、多和田有希さん、10ページ目です。2作品の御提案です。

同じく13ページ目、永田康祐さんの作品3点、インクジェットのプリントでございます。

16ページ目、野口里佳さん、現在開催中の展覧会「野口里佳」展に出品している作品でございます。お手元に開催中の展覧会の図録2冊、御用意させていただきましたので、こちらも併せて御確認ください。こちらは全部で5点の作品です。

続きまして、19ページ目の深瀬昌久さん、この作品は、今年度開催します「深瀬昌久」展に出品する予定の作品で8作品、ゼラチン・シルバー・プリントです。

あとは水木壘さん、この方は同じく現在開催中の「日本の新進作家」展に出品中の作品で、2点の御提案です。

25 ページからは DOISNEAU Robert の作品 8 点になります。これは次年度「本橋成一とロベール・ドアノー」展といった 2 人展のグループ展で紹介する作品のうち 8 点、購入を御提案させていただきます。

続きまして 28 ページ目、Marja Pirila さん、これはカメラオブスキュラでした「インナー・ランドスケープス、トーキョー」のシリーズ 6 点。

31 ページ目からは映像作家作品になります。「阿倍野筋」という、今井祝雄さんのこちらは映像作品になります。1977 年の作品です。

34 ページ、岩井優さん、現在開催中の「日本の新進作家」展出品中の作家で、3 点の作品。

続きまして、37 ページ、澤田華さん、この方の新進作家展の映像作品シリーズが 2 点。

40 ページ目、渡辺豪さん、「回転するアトリエ」のシリーズと 1 作品で合計 2 点。

43 ページ目の Nguyễn Trinh Thi さんの作品です。海外の映像作家作品です。この作品につきましては、次年度の写真展での展示を予定しております。

最後に 46 ページ目、Tamás Waliczky さんの「想像のカメラ」と題しまして 9 点のフルコンピュータ・グラフィックス、フル CG で制作した平面作品を 9 点。

以上が、東京都購入案件の 16 作家、60 点の案件でございます。

続きまして、写真美術館で購入いたします、写真美術館の支援会費で購入いたします購入案件、こちらは 5 作家の 38 点を御提案させていただきます。

田口和奈さんと 3 つ目の Susan Derges さんにつきましては、今年度開催しました「光のメディア」展に出品した作家作品です。

同じく Susan Derges につきましては、1 点。

戻って本橋成一さんです。本橋成一さんも、写真美術館の来年度の自主企画展「本橋成一とロベール・ドアノー」展に出品予定作家でございます。

残り 2 作品は、写真資料として昨年写真美術館が開催しました「写真発祥地の原風景 はこだて」展に出品した 2 作品でございます。作家不詳の 1 点は、1892 年頃に撮影されました鶏卵紙の作品 1 点、そして田本研造による、同じく 1892 年頃撮影された鶏卵紙 1 点の、合計 38 点でございます。

以上が 2 つの購入案件でございます。

最後に、寄贈作品の御説明にまいります。今年度も寄贈作品の案件が大変多うございます。写真美術館への寄贈のお申出というのは毎年多くなっております。ただ、写真美術館でも収蔵のスペースには限りもありますし、有効に活用できる、また、展覧会や作品の貸出し、また、TOP コレクションでの公開など有効な活用ができるもの、また、日本・海外の写真史を代表する作家・作品に厳選して寄贈をお受けしているところでございます。

浅井慎平さん、飯田鉄さんなど、今井寿恵さん、個人コレクターさんからの御寄贈と備考欄に書いてあるものは、以前、青山のベルコモンズで写真ギャラリーを開設していたときに販売して

いた作品というものを、一括して個人コレクターの方から御寄贈いただいたケースなどがございます。

3 番目の 10 ページ目の糸井潤さんにつきましては、「光のメディア」展でも御紹介した作家であったり、13 ページ目の今井寿恵さんは写真美術館の収蔵作家作品、音納捨三さんにつきましては、今年度購入いたします「アヴァンギャルド勃興」展に出品したフォトグラムの作品の購入に伴う御寄贈で、19 ページ目の川田喜久治さんの作品についても個人コレクターの方からの御寄贈であり、川田さんは写真美術館の第一期重点収集作家であるということでお受けいたします。

22 ページ目の齋藤陽道さん、1 点御提案、平成 31 年度、2 年前の「日本の新進作家」展に御出品いただいた作家の作品でございます。

25 ページ目の坂田栄一郎さんのファッション写真、これも個人コレクターの方からの御寄贈です。

28 ページ目の櫻井一郎さんの「満蒙印画輯」、これは貴重な戦前・戦中の時代に撮影された満州、大陸で撮影された貴重な写真アルバムの御寄贈でございます。

Satoko Sai+Tomoko Kurahara さんの 4 作品につきましては、購入に伴う寄贈。

そして 37 ページの沢渡朔さんの「少女アリス」も、個人コレクターの方から 4 点の寄贈です。

37 ページ目の柴田敏雄さんにつきましては 6 点で、こちらも個人コレクターからの御寄贈でございます。

島田謹介さん、1 点、これも個人コレクターの方からの貴重な御寄贈でございます。島田謹介さんも当館の収蔵作家作品でございます。

43 ページの嶋田忠さんの 49 点については、平成 31 年度に開催しました自主企画展「嶋田忠 野生の瞬間」の出品作品のうちから、代表的な作品を御寄贈いただきました。

54 ページ目の田村彰英さんの作品も、写真美術館では収蔵していないカラーの「星条旗」の作品を御寄贈いただきました。

57 ページの多和田有希さんの作品、現在開催中の「日本の新進作家」展に出品中の作家でございます。

60 ページ目の内藤正敏さんも 1 点、個人の方からの御寄贈です。

次のページも個人からの御寄贈で、並河萬里さんが 1 点。

続きまして、66 ページの奈良原一高さんのカラーの作品についても 1 点。

そして 69 ページ目の深瀬昌久さんの作品 7 点、これは先ほど御説明しました都費で購入するための作品の購入に伴う御寄贈ということで、7 点お申出をいただきました。

松江泰治さんの作品は、令和 3 年度開催しました「マキエタ CC」展の出品作品でございます。作家からの御寄贈ということでございます。

75 ページ目の松本徳彦さんの作品、これは作家御本人からの御寄贈で、既に写真美術館では松本徳彦さんの「世界の舞台芸術」のシリーズ、モノクロの作品を収蔵しておりますが、今回はシリーズ違い、また、カラーの作品を含めた作品を 61 点御提供いただきました。

88 ページ目の水木壘さんの作品 2 点ですが、この方も現在開催中の新進作家展に出品してい

る作家さんの作品です。

森永純さん、この方も既に収蔵しております「海」、「波」のシリーズで、2点ございます。

続いて、横須賀功光さんの「光の庭」のシリーズで、1点です。

吉田志穂さん、昨年度の「日本の新進作家」展、第18回目の新進展に御出品いただきました吉田志穂さんの作品の御寄贈を御提案いただきました。

100ページ目以降から海外の作家となります。

FEININGER, Andreas 作品が101点で、これはペンタックスフォーラムで開催しました「アンドレアス・ファイニンガー」展の作品で、ギャラリーとペンタックス様の御厚意により写真美術館に御寄贈をいただくことができました。

そして KASTEN, Barbara、GUILLÉN, Mauricio、FAUCON, Bernard、これらも個人コレクターの方からの御寄贈のお申出で御提案いただきました。

次に映像作家作品ですが、134ページになりますエキソニモ、写真美術館で昨年度開催しました「エキソニモ」展に出品したエキソニモが作ったアートブックでございます。限定100部で、今回、作家御本人から御寄贈いただきました。これは書籍の体裁になります。

137ページは小田香さんの「セノーテ・ラッシュフィルム」、これは1作品。

そして佐藤朋子さんの「オバケ東京のためのインデックス 序章」、これは昨年の映像祭でも御紹介した作品でございます。

永田康祐さん、現在開催中の新進作家展に出品しておりますシングルチャンネル・ビデオの2作品です。

146ページ以降、川野洋さん以降、6作家6点から成るポートフォリオのシルクスクリーン「Art Ex Machina」では、この夏に開催しました映像展、「イメージ・メイキングを分解する」展でも紹介しました作家によるシルクスクリーンの作品でございます。1作家1作品で合計6点で構成されております。

以上で総点数が315点です。

以上、駆け足ではございますが、購入作品、寄贈作品の概要を説明させていただきました。

この後、委員の皆様実際に収蔵庫そしてスタジオで作品を実見、一部映像作品についてはデモとなるその部分の映像資料を御覧いただきます。大変恐れ入りますが、収蔵庫内では鉛筆以外の筆記具はお使いになれませんので、御協力をお願いいたします。

作品の評価額の決定方法ですが、皆様のお手元に、令和4年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会付議案件の評価表、一番下にナンバリングを振っておりますつづりがございます。上から東京都購入案件、東京都写真美術館購入案件、寄贈案件、それぞれシートが分かれております。こちらの様式に金額を記載いただきまして、委員の皆様それぞれの部門ごとに署名をいただきます。そして、いただきました評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの平均額を、今回御提案いたしました作品の評価額とさせていただきます予定でございます。この後、作品の実見に入りたいと思います。

最初の説明については以上です。

大森文化施設担当課長：ありがとうございます。

この段階で何か御質問、御意見ございますか。大丈夫でしょうか。

それでは、御質問ないようでしたら、これから作品の実見をお願いしたいと思います。係の者が御案内いたしますのでよろしく願いいたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

大森文化施設担当課長：ありがとうございました。

それでは、作品を御覧になりまして、何か御質問、御意見ございますでしょうか。

それでは、御質問がないようでしたら、お手元の評価書3種類に評価額をお書きいただいて、最後にそれぞれペンで御記名をお願いしたいと思います。

評価をいただく前に御連絡がございまして、今年度をもちまして荒木委員、飯田委員、石田委員、高橋委員、松永委員、南委員、矢野委員の任期が終了いたします。長きにわたりまして東京都写真美術館の作品資料収集に御尽力いただきまして、誠にありがとうございました。改めて事務局より御礼を申し上げます。引き続き御指導、御鞭撻いただければと思います。

それでは、御評価をお願いいたします。御記入がお済みになった方は、事務局が確認いたしますので、挙手またはお声がけいただければと思います。確認が終わりましたら御退席いただけますので、よろしく願いいたします。

(評価書記入)

午後5時28分閉会

以上